

狭く深くに徹した勉強を  
— 定期試験で 100 点満点を取るには —

開倫塾

塾長 林 明夫

Q：学校の間試験や期末試験、前期試験や後期試験などの「定期試験」で100点満点を取るにはどうしたらよいでしょうか。

A：(林 明夫。以下略)狭く深くに徹した勉強をすることをお勧めします。

Q：「狭く深く」に「徹する」とはどういうことですか。

A：定期試験の出題範囲は、「限られて」います。教科書や副教材の何ページから何ページまでとか授業中にとったノートの中からとか、出題範囲が「限られて」います。「限られている狭い範囲」の中からしか出題されないのが定期試験ですから、深く徹底的に勉強しましょう。

Q：具体的にはどうやればよいのですか。

A：何を材料に勉強するかを、はっきり決めること。教科書や副教材、問題集の何ページから何ページまでと出題範囲が決まっている場合は、それを徹底的に勉強すること。これが「狭く」です。

どのように勉強するのかといえば、教材の試験範囲として示された初めのページから終わりのページまでの一語一句を正確に覚え込むこと。「覚え込む」とは、①何も見ないでスラスラ正確に言えるようにすること。②何も見ないでスラスラ正確に「楷書(かいしょ)」で書けるまでにすること。③例題や基本問題だけでなく、試験範囲内に出てくるすべての問題は、条件反射(じょうけんはんしゃ)で、つまり問題を見た瞬間(しゅんかん)にパッと正解が出るまでにしておくこと。これが、「深く」の内容です。これを徹底的にやることを、「徹する」と言います。少し分かりましたか。

Q：開倫塾でよく言われている、一度うんなるほどと「理解」した内容を「定着」させるための作業を徹底的にやることに似ていますね。

A：その通りです。よく分かりましたね。そこまでやってから市販の予想問題集や開倫塾の定期試験対策用の「的中予想問題集」に取り組んでみましょう。①から③までの勉強、つまり「定着のための作業」をまったくやらずに予想問題集に取り組むときと違って、こうすると一度うんなるほどと「理解」した内容がほぼ完璧に身に付いていますからスラスラできること請け合いです。

**Q：予想問題集などで間違えた問題は、どうしたらよいのですか。**

A：まずは、間違えた問題の番号の前に自分の好きな印をつけましょう。次に、なぜ間違えたのかその原因を考えましょう。うんなるほどとよく「理解」していないことが原因であるならば、教科書や辞書、参考書、授業中にとったノートなどの内容がよく分かるようになるまで、もう一度丁寧に勉強しましょう。どうしても、うんなるほどとよく「理解」できなければ、学校や開倫塾の先生に遠慮せずに質問しましょう。

間違えた原因が、前述の①から③までの「定着のための作業」が足りなかったためであるならば、①から③のどれに当たるかを自分でよく考えて、焦ることなく丁寧に「定着のための作業」に打ち込みましょう。

間違える問題が少なくなればなるほど、どんな問題が出ても 100 点満点が取れます。

**Q：結構時間がかかりそうですね。**

A：勉強に時間がかかるのは当然です。ですから、「じーっと机に向かい勉強に集中できること」も大事な能力の一つとなります。

このような定期試験の勉強では、「努力は報われる」といえます。どうか、「狭く深く」の勉強に徹して、定期試験で 1 科目でも多く 100 点満点を取って下さい。100 点満点を取るとその科目は皆さんの得意科目になります。自信がついて、勉強することが楽しくなりますよ。では、頑張ってください。

－ 「米国チャータースクール最新事情視察」のために訪れている、  
日中の気温が 44 度のアリゾナ州フェニックスにて 5 月 24 日に記す－